

各位

2025年 2月 28日

日本老人福祉財団

『第23回〈ゆうゆうの里〉職員実践研究発表会』開催

高齢者介護の最前線で働く職員の“リアル”な課題共有と解決の研究発表会

介護付有料老人ホーム〈ゆうゆうの里〉を全国7箇所で運営する一般財団法人日本老人福祉財団（本部：東京都中央区、理事長：小口明彦）では、全施設及び本部すべての部門で取り組んでいる「課題研究」を共有し、解決を図る目的で『〈ゆうゆうの里〉職員実践研究発表会』を、令和7年2月20日（木）にkokoka 京都市国際交流会館にて開催いたしました。

事務、食事、介護、医療の全部門から20演題の取り組みを発表しました。今回は、業務のデジタル化やノーリフトケアなどの生産性向上の取り組みやリビングウィル（事前意思確認書）の取り組みなど、入居時自立型有料老人ホームならではの発表が多くありました。当日の参加者は総勢108名でした。



【会場の様子】



【表彰式での記念撮影】

【優秀賞】(4 演題)

- 「生活リハ」で元気度アップ～BI 値で科学的介護を実践～
佐倉〈ゆうゆうの里〉ケアサービス課 今井桜月
- かつてない食材価格高騰に対処するため～美味しい食事提供との両立～
伊豆高原〈ゆうゆうの里〉食事サービス課 三浦伊織
- 「看護サマリーの見直し」
神戸〈ゆうゆうの里〉診療所 木地智恵美
- 職員の腰痛予防・軽減に自分の学びを活かしたい！～腰痛予防担当者として今そしてこれからできること～
佐倉〈ゆうゆうの里〉生活サービス課 鶴岡真弥

【会場賞】(1 演題)

- やっぱりお好み焼きは鉄板や！～個別外出企画～
大阪〈ゆうゆうの里〉生活サービス課 門田拓也

優秀賞受賞演題概要について

- 「生活リハ」で元気度アップ～BI 値で科学的介護を実践～

概要：常勤の機能訓練指導員の入職をきっかけに介護職員が生活の中でこまめに「生活リハ」を実践することにより、入居者の ADL の維持向上を図ることを目的とした研究。計画作成担当者・機能訓練指導員・介護職員が連携し、実施。結果、対象の 78.5% の入居者の BI 値が維持向上した。



佐倉施設 今井桜月さん

- かつてない食材価格高騰に対処するため～美味しい食事提供との両立～

概要：昨今の物価上昇に伴い、赤字の増大につながった。少しでも収支改善しながらおいしい食事提供を続けるための対策を検討・実行した研究。仕入れ価格の減少、原価調査、食材比率の把握、入居者アンケートの確認などを行った。結果、上半期で 278 万円を削減、食材比率は平均 7% 削減することが出来た。入居者アンケートでも「おいしくない」という意見は 1 件もなかった。



伊豆高原施設 三浦伊織さん

- 「看護サマリーの見直し」

概要：看護サマリーが古い形式で記入に時間を要する、記入の方法が個人によりまちまちであった為、簡潔明瞭でスタッフが同じレベルで記入できる要旨の作成に取り組んだ。参考資料の収集やミーティングを行い、独自のサマリー用紙が出来るように修正した。結果、今までの用紙と比べると転院時用、施設内用と 2 種類共に簡潔明瞭に記録ができ、ADL に関して分かりやすくなり、継続するケアが細かく記入できるようになった。また、スタッフがほぼ同じレベルで記入できるようになった。



神戸施設 木地智恵美さん

- 職員の腰痛予防・軽減に自分の学びを活かしたい！

～腰痛予防担当者として今そしてこれからできること～

概要：入職歴の浅い職員が自身の学生時代の知識を活かし、腰痛の発生状況を把握、その原因・予防策について研究を行った。腰痛は、筋力・柔軟性不足と仮説を立て調査を行ったが、有意差はみられなかった。そこで、さらに踏み込んだ調査を行った結果、身体的原因やストレスが原因となることが多かった。（睡眠時間が 6 時間以下と短い、休息をストレス解消にあてる職員の割合が高かった）研究には、OODA ループを用いたことでスピード感をもって取り組んだ。



佐倉施設 鶴岡真弥さん

研究発表の講評について

- 午前の部

奈良東病院 理事長 鉄村 信治 氏

皆様日々現場で大変忙しい中、素晴らしい研究を続けられたということで敬意を表したいと思います。大変、熱意の溢れる取り組みでした。

私達、医療や介護に携わる人は働いている限り、常に新しいことを学ばなければならないという責務があります。研究発表会を通じて、質の向上をこれからも目指して頂ければと思いました。



- 午後の部

武庫川女子大学 経営学部 経営学科 教授 西道 実 氏

初めて、この研究発表会の審査員を引き受けました。自分たちの持っているサービスを最大化するために仕組みやノウハウに置き換えられるものは置き換えていき、人間にしかできないサービス業の本質に関わるものに注力する。そのような点を評価しようと思っていました。ここから、ゆうゆうの里の原点になるような仕組み・ノウハウが生まれてくると思っています。

(某 コーヒーチェーン店の例も踏まえ、講評いただきました)



参考：当日プログラム

<第1群> 座長：京都〈ゆうゆうの里〉生活サービス課 課長 富山友加里

1	男性が気軽にに行ける体操づくり！ ～座ってできる！こつこつ貯筋体操～	湯河原〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課 関浩平
2	「心も体も楽しく鍛える」 ～「ここに来たら元気になれる」皆さんの憩いの場所を目指して～	神戸〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課 山内なおこ
3	やっぱりお好み焼きは鉄板や！ ～個別外出企画～	大阪〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課 門田拓也
4	「生活リハ」で元気度アップ ～BI 値で科学的介護を実践～	佐倉〈ゆうゆうの里〉 ケアサービス課 今井桜月
5	あなたの想いを大切にします ～リビングウィル（事前意思確認書）～	京都〈ゆうゆうの里〉 ケアサービス課 小松敦子

<第2群> 座長：浜松〈ゆうゆうの里〉食事サービス課 課長 天羽雅也

6	診療所・介護保険看護職員交換研修 ～BCP：いざという時に備えて入居者の安心のために～	京都〈ゆうゆうの里〉 診療所 山崎有美
7	最新の福祉機器導入による褥瘡予防と職員負担の軽減 ～入居者・職員双方に負担の少ない介護を目指して～	浜松〈ゆうゆうの里〉 ケアサービス課 塩井経平
8	デジタル化で更なる生産性向上 ～タブレット活用で業務負担とコストを軽減～	佐倉〈ゆうゆうの里〉 ケアサービス課 石井翔
9	かつてない食材価格高騰に対処するため ～美味しい食事提供との両立～	伊豆高原〈ゆうゆうの里〉 食事サービス課 三浦伊織
10	省エネの取り組み（2年目）	神戸〈ゆうゆうの里〉 事務管理課 高田樹

<第3群> 座長：佐倉〈ゆうゆうの里〉事務管理課 課長 磯部悠

11	契約目標 25 件・入居率 93%を達成するための取り組み ～新規顧客獲得の重要性～	伊豆高原〈ゆうゆうの里〉 事務管理課 渡辺ちえみ
12	ライフスタイルに添うソフトランディングを目指して ～新入居者の希望を引き出すリクエストシートの導入～	浜松〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課 金子莉奈
13	入居者の嗜好に合わせた食札作り ～配膳時にもあなたの嗜好で届けます～	湯河原〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課 奥井俊
14	気づきと後押しでフレイル予防 ～AIを活用した要介護予測とアドバイスの強化の試み～	本部 施設支援部 サービス推進課 中野真子
15	スペースの有効活用 ～限られたスペースで楽しみを増やそう！～	大阪〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課 藤田隆宏

<第4群> 座長：神戸〈ゆうゆうの里〉ケアサービス課 課長 三宅康史

16	「看護サマリーの見直し」	神戸〈ゆうゆうの里〉 診療所 木地智恵美
17	最適湿度を保つには 2 ～手間なく効果的に行う方法を考える～	大阪〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課 岡本茉里
18	高齢者福祉の世界へ飛び出せ！ 2 ～「教えることは学ぶこと」の視点から～	京都〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課 浅木優菜
19	職員の腰痛予防・軽減に自分の学びを活かしたい！ ～腰痛予防担当者として今そしてこれからできること～	佐倉〈ゆうゆうの里〉 生活サービス課 鶴岡真弥
20	ノーリフトケアの定着を目指して ～介護用リフトを導入して 1 年目の取り組み～	浜松〈ゆうゆうの里〉 ノーリフトケア担当 仁多見尚

■日本老人福祉財団のなりたち

日本老人福祉財団は、1970年代初頭の高度経済成長期のなかでいち早く将来の「日本社会の高齢化」を見据えて、特に日本経済の高度成長による労働人口の都市への集中がもたらす「核家族化」現象により、一人暮らしの老人の増加などの高齢期における経済上、生活上、肉体的・精神的健康の問題に立ち向かうべく、1973年に設立いたしました。

■日本老人福祉財団の基本理念

—豊かな福祉社会の実現を目指して—
私達は、老後の“安心”と“幸せ”を提供することにより社会へ貢献します。
私達は、はたらく人達の“人間性”を大切にします。

『ケア・スピリット』
私にとって、あなたはとても大切な人です。

■組織概要

財団名：一般財団法人 日本老人福祉財団

理事長：小口 明彦

設立：1973（昭和48）年

事業：介護付有料老人ホーム〈ゆうゆうの里〉を全国7箇所で運営
（佐倉、湯河原、伊豆高原、浜松、京都、大阪、神戸）

特徴：創立51年目を迎えた老舗の有料老人ホーム運営事業者
自立の時期に入居し最期まで暮らせる住まい（終の棲家）を提供
1施設あたり平均300戸を超える大型施設のCCRC「高齢者コミュニティ」を展開している

H P：<https://jscwo.jp/>

本件に関する報道関係者からのお問い合わせ先
一般財団法人 日本老人福祉財団 本部 経営企画部 企画課 井尻
Tel. 03-3662-3611 / Mail. ijiri-tk@yuyunosato.or.jp